

科目名	地域コミュニティ論	科目コード	1526	単位数	2
担当者名	玉井 航太	開講セメスター	第6セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	講義	到達目標	B,F	実務経験	無
ナンバリング	DPs602	DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

● 授業のねらい

本講義では、社会学的観点・心理学的観点からコミュニティというものを考える。また、個人と地域コミュニティの関係性を整理し、その問題点の議論を通して、地域コミュニティの在り方とその再生、構築方法を検討する。そして、修得した知識および技能により、自ら課題を発見し解決する能力を養ってもらおう。

● 到達目標

人間は自分の周りにあるコミュニティと無関係ではいられず、コミュニティに影響を与えたり、与えられたりする存在である。講義と相互の議論を通して、コミュニティをどのように理解し、その中で生きていくかを考える能力の習得、そして、社会と自身の関係性の理解を目指す。また、講義を通し、具体的思考と抽象的思考、論理的思考を養い、グループディスカッションを通し、客観的思考とディスカッション能力を身に付けてもらう。予定される学内アクセスポイントが整備された際には、学内アクセスポイントを用いてオンライン上のデータ/アプリ/サービスを授業で使用し、ICT(情報通信技術)の活用する方法を学ぶ/利活用ができるようになる。

● 授業内容

- 1週目 オリエンテーション・コミュニティとは何か
 - 2週目 地域コミュニティの定義・心理社会的資源
 - 3週目 グループディスカッション（1）（GDの進め方・実践）(学内アクセスポイント使用予定)
 - 4週目 GD講評とコミュニティと地域組織（1）（町内会・自治会）
 - 5週目 コミュニティと地域組織（2）（NPOとその役割）
 - 6週目 グループディスカッション（2）（コミュニティのアソシエーション）(学内アクセスポイント使用予定)
 - 7週目 GD講評と中間レポートのための論文解説
 - 8週目 コミュニティと犯罪・防犯・防災
 - 9週目 コミュニティと公共性（1）（社会保障）
 - 10週目 コミュニティと公共性（2）（公と私）
 - 11週目 グループディスカッション（3）（公共性のあり方）(学内アクセスポイント使用予定)
 - 12週目 GD講評と期末試験レポートのための論文解説
 - 13週目 地域企業とコミュニティの活性化
 - 14週目 グループディスカッション（4）（コミュニティにおける個人）(学内アクセスポイント使用予定)
 - 15週目 GD講評・コミュニティにおける社会問題解決と個人
 - 16週目 期末レポートの講評
- 但し、やむを得ず、15週目までの授業内容を実施出来なかった場合は、補講授業を行います。

● 準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

中間・期末レポートは、授業の内容を踏まえて書いてもらう。そのため、授業の資料/動画/教材をLMSに掲示するので学内アクセスポイント(整備予定)等を用いて各自アクセスし、予習を行なっておくこと(1時間)。GDの講評資料などもオンライン授業ツールに公開するので、授業後にも2時間程度の復習を行い、紹介した事柄を理解すると共に、学んだことに対する自分の考えを整理するようにしておくこと。本講義ではグループディスカッション（GD）を活用して進めていく。GDのテーマも事前に提示するので、学内アクセスポイント(整備予定)等を自由に使い、授業時間以外にも自主的に調査・情報収集の取り組むことが望ましい。

● 成績評価の方法・基準

グループディスカッションへの参加（40％）・中間レポート（30％）・期末レポート（30％）を得点化し、総合的に評価をする。また、授業時での態度や議論への取り組みも判断材料に含める。成績の評価は、16週目を除いた15週の内、11週以上授業に出席した学生を対象とする。レポートの未提出には評価を与えない。

● 履修上の留意点

- 1.16週目を除いた15週の内11週以上授業に出席した学生を評価対象とする。つまり、5回目の欠席で単位取得要件を満たさなくなる。また、2回の遅刻で1回分の欠席とするので注意されたい。
- 2.授業に関するお知らせ、資料の配布などは、LMSからおこなう。
- 3.スマホ・タブレット・PCなどのデバイスを用いてGDに取り組んでもらう(学内アクセスポイント使用予定)。そのため、デバイスのバッテリー状況に気をつけること。
- 4.オンライン形式を実施する可能性もある。オンラインでの受講が可能な状態であることが望ましい。

● 課題に対するフィードバックの方法

グループディスカッションについては、実施週の次の週でグループごとに講評をおこない、ディスカッションの間の意図と解き方についての総評をおこなう。レポートは、事前に提示するルーブリック基準に従い採点し、フィードバックする。

● テキスト

特になし。必要な講義資料は授業時に配布。

● 参考書

広井良典(著) コミュニティを問いなおす つながり・都市・日本社会の未来 筑摩書房

● 更新日付

2024/02/22 10:38